



# A-TiC

広報誌エーティック・プレス

# PRESS



## 株式会社 エーティック

SINCE1973

### 「第二の創業」に向け企画力・提案力の強化を

新年明けましておめでとうございます。

猛威を振るったコロナ禍も、昨年5月に5類に移行し、ようやく終息の気配を見せ始めていますが、インフルエンザなどの感染症が流行の兆しを見せています。皆様もくれぐれもご自愛くださいますようにご祈念申し上げます。

令和5年は当社にとって大きな節目の年となりました。昭和48年の創立から50年を迎え、さまざまな行事を行う中で、発注者様のご指導とご鞭撻、先輩諸氏の皆様のたゆまないご努力、社員の皆さんの日々の研鑽とコミュニケーションの醸成、そして皆さんを温かく支え続けてきた家族の方達の存在の大切さをあらためて認識いたしました。心から感謝いたします。

令和6年は当社の「第二創業」のスタートの年と位置付けています。建設コンサルタントは、お客様とのコミュニケーションを取る中で、相手の求めていることを的確に理解し、魅力ある提案をしていくことが使命です。DX、ICTは今や業界の常識になりつつあります。デジタル技術を磨きつつ、アナログ＝リアルを重視し、総合建設コンサルタントとして「問題解決型」の企業を目指してきましたが、第二創業を迎え、この取組をさらに加速することが必要と考えています。

私は社員の皆さんに「何のためにこの仕事をしているのか」ということを常に忘れず、顧客の悩みや期待に応え続けることが、当社のミッションである、と伝えてきました。第二の創業を迎え、当社はこれから100年に向けての歩みを開始します。今後の50年は想像を超える変革の波が押し寄せてくるでしょう。社員・家族・地域とともに、当社の基本理念である「創意 熱意 誠意」の三意の精神を持ち続けて、変革の波を乗り越え、新たな地平を目指したいと思っています。

新春を迎え、皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げますとともに、今年一年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 舟田 幸太郎

12

## 技術者列伝 宮本 武之輔 後編

～技術官僚としての新たなる道～



Takenosuke Miyamoto

土木学会附属土木図書館 提供

宮本武之輔は多くの困難を乗り越えながら大河津分水路の改修事業を進め、越後平野を大穀倉地帯に導き、信濃川治水史に多大な功績を上げました。しかし、一技術者としての功績には満足せず、新たなステージへ足を踏み入れます。

高級官僚として幅広い人脉形成・昇進を目指す傍ら、大学教授として後進への技術伝承、また未だ弱い立場の技術者の地位向上運動、技術者・知識人として執筆活動など、多方面にわたって精力的な活動を繰り返していきます。

### ○可動堰の完成

仮締切を切った影響で工程に遅延は出たものの、陥没事故から4年後の1931(昭和6)年、ついに大河津分水路可動堰は完成しました。自在堰は8径間の無筋構造で流量調節はできませんでしたが、可動堰は10径間、全長180mの鉄筋コンクリート製・ゲート方式で、止水矢板は4.5mの木製から長尺12mの鉄製に変更、洗掘防止の水叩き工や床固工が設けられました。

一方で、自在堰の関係者は、設計者の岡部三郎を含め、多くが罷免や異動が行われました。「技術者は失敗を恐れては進歩がない」と考えていた宮本は、多くの優秀な技術者を失うこの処遇にかなりの反発があり、可動堰建設も「雪辱戦」と闘志を駆り立てて臨んでいました。長尺矢板の施工に用いられた水射工法(ウォータージェット)は、自在堰陥没の主要因の1つとして内務省から使用を禁止されていましたが、あえて同工法を再採用し、当時の施工に問題がないことを、実地をもって証明したのです。



可動堰(左)と洗堰(右) (信濃川大河津資料館 所蔵)



完成した可動堰 (信濃川大河津資料館 所蔵)

### ○技術者を守る

大河津分水路可動堰建設という大仕事をやり遂げたのち、内務省土木局第一技術課に勤務していました。その頃、国家財政の逼迫により、土木技官の大半が整理対象となる緊縮予算が立ち上がりました。かねてから技術官僚への冷遇に憤りを持っていた宮本は、技官団結を訴えて「日本工人倶楽部」を結成し、技術者の地

位向上運動を展開します。その一環として「資源の少ない日本は技術立国を目指すべき」と主張して科学技術庁の設立に取り組みます。

また文筆家の宮本は実に多くの技術書を残しています。欧州歴訪から帰国後、大河津分水路の事故前まで、日本大学高等工学校で鉄筋論を講義していましたし、「鉄筋コンクリート」の知見は可動堰建設に大いに活用しました。新潟で可動堰の建設に携わる傍ら博士号を取得し、1937(昭和12)年には内務省兼任で東京帝国大学教授に就任しています。講義にも使用されたのか、1936(昭和11)年に「鋼矢板工法」、1941(昭和16)年に「鉄筋コンクリート」「治水工学」などを執筆しています。何れも実際の現場経験に裏付けられた技術であり、「治水工学」は現在の河川工学の原点と言われています。技術書に加えて、各メディアへの寄稿や講演・演説を次々と行った宮本は、時代の寵児となっていきます。

### ○道半ばにして倒れる

1941(昭和16)年、ついに宮本は官僚トップであり国の最高政策立案機関である企画院次長へ就任しました。論文執筆や大学教授を兼任しながらも、相手を選ばない幅広い交友関係は続きました。後ろ盾のない一介の技術者に対する異例の人事に、この幅広い人脉は奏功したことでしょう。自らの発言力を高めた宮本は、技術者の地位向上や技術立国の必要性を政界で強く訴えます。一方で職を失う技術者を守るため、技術者の派遣を行っていた満州開発は、戦況の悪化が影を落としていきます。この新しい挑戦は、宮本を更なる激務へと駆り立てるのです。

同年12月、国会演説の待機中に倒れ、そのまま自宅で急逝します。享年49歳、死因は悪性の肺炎と伝えられています。日本の技術史に一石を投じた宮本の活動は、道半ばで終焉を迎えたのです。



青山士(左)と宮本武之輔(右) 可動堰工事現場にて (信濃川大河津資料館 所蔵)

### ○宮本武之輔と青山士

宮本が東京帝国大学在学中の懇親会で、青山士と一緒に撮影した写真が残されています。同じ廣井勇門下の先輩・後輩、また出張所の上司・部下として四半世紀にわたり多くの時間を共有した二人です。性格も生き方も正反対の、破天荒で才能豊かな後輩のあまりにも早すぎる死を、クリスチャンの青山は一体どのように受け止めたことでしょう。

大河津分水路可動堰は、施設の老朽化と河川整備計画で整備拡充の方針となり、新可動堰が建設された2011(平成23)年、80年に及ぶその役割を終えました。大きな被害もなく日本一の穀倉地帯を守り抜いたのです。可動堰右岸にある補修工事竣工記念碑には『萬象二天意ヲ覚る者ハ幸ナリ、人類ノ為メ、国ノ為メ』の言葉が刻まれています。この碑文は可動堰竣工にあたって青山が刻ませたものですが、2人が同じ技術者精神のもとで道を歩んだ証明であり、後輩への追悼の言葉に思えてなりません。



新可動堰：ラジアルゲートとしては国内最大級



井形 淳 設計部 技師長 工学博士 / 技術士 (建設部門)

宮本武之輔の目指した技術立国の道は、突然終わりを迎えました。日本は戦後復興を経てやっと技術大国へと発展しますが、もし彼が技術官僚として大成する未来があったら日本はどう変わっていたか、早世が惜しまれます。

1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株)エーティック入社

# 開発局長表彰と開建部長表彰を受賞しました！

2023年度北海道開発局優良工事等表彰で、当社は開発局長表彰と部長表彰を受賞しました。局長・部長表彰の同時受賞は3年連続で、計4件での受賞は過去最多です。受賞した業務の各管理技術者は「今後も研鑽を積み良質な社会基盤整備に貢献していきたい」と抱負を語っています。

## 【開発局長表彰】



一般国道40号 天塩町天塩防災水路施設移設施工計画検討業務(留萌開発建設部発注) = 神元 貴也

## 【開発建設部長表彰】



一般国道5号  
仁木町道路附属物設計  
計画外一連業務  
(小樽開発建設部)  
= 熊谷幹也



一般国道39号  
上川町仏の沢覆道  
補修設計外一連業務  
(旭川開発建設部)



一般国道238号  
稚内市声間自転車  
通行帯施工計画検討  
外一連業務  
(稚内開発建設部)  
= 櫻井信作

## NEWS

### 岡田専務が土木学会名誉会員称号を授与

当社の岡田正之専務執行役員が、土木学会名誉会員称号授与および土木学会北海道支部功労賞を受賞しました。土木学会名誉会員称号授与は6月9日、公益社団法人土木学会より「学会の発展に対する貢献が特に顕著な会員に贈られる称号」として、「土木学会名誉会員推薦規程」により推薦を受け、その称号が授与されました。



岡田正之専務執行役員

### インターンシップを実施しました



舟田社長から会社の方針などの説明を受けました

8月21日から25日の日程でインターンシップを実施しました。今回は北見工業大学と苫小牧工業高等専門学校から2人の学生が訪れ、各部門の担当者から業務内についてレクチャーを受け、札幌市内や石狩市の現場で実際の作業を体験しました。



## 道内トンネル文献あれこれ

令和4年12月～令和5年11月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係者の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

### 国・道道他

- 坂本秀夫, 土田隆史, 小川修, 藤岡祐基: 突発湧水に対処しながら一車線の自動車専用道路トンネルを効率的に掘る—一般国道5号新稲穂トンネル上り線共和工区—, トンネルと地下, Vol.54, No.9, pp8-17, 2023.
- 肥後宏紀, 近藤正隆, 田村学, 平塚裕介: 長大・小断面トンネルにおけるレール方式による断層破砕帯の施工—大沼トンネル避難坑峠下工区新設工事—, 第92回(山岳)施工体験発表会, pp88-95, 2023
- 田村学: 北海道縦貫自動車道 七飯町 大沼トンネル避難坑峠下工区新設工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.73, pp1-7, 2023.
- 宮川直也, 樋口哲哉, 兼安栄紀: 膨張性地山におけるトンネルの施工実績について, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-23, pp1-6, 2022.
- 天童涼太, 日向哲朗, 横内静二, 小柳武徳, 太田学, 中島健太, 斉藤将平, 人見直輝: 発破の高度化技術と全自動ドリルジャンボの連携による生産性向上の取り組み, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-14, pp1-7, 2022.
- 森本恭弘, 竹内和晃, 若林功起: 小土盛りで高速道路と交差する山岳トンネルの施工, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-28, pp1-8, 2022.

### 新幹線・鉄道

- 塩梅恭平, 梅主大和, 山口真基, 小塩崇之: 地山挙動を考慮した施工管理による小土盛り未固結地山の掘削に関する報告, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-29, pp1-8, 2022.
- 小原寛士, 石川大輔, 浅野彰夫: 弾性波探査を活用した一次インパートの施工合理化に関する検討, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-39, pp1-8, 2022.
- 辰巳嘉大, 羽生田康雄, 大原宏敬, 山火智洋: 大土かぶり強変質凝灰岩区間の施工と今後の計画—北海道新幹線 後志トンネル(塩谷)—, トンネルと地下, Vol.54, No.7, pp8-15, 2023.
- 山火智洋: 北海道新幹線 後志トンネル(塩谷), 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.73, pp8-12, 2023.
- 井越亮, 上松苑, 友瀧庸治: SENSで掘進中に出現した巨大な岩塊群の撤去—北海道新幹線 羊蹄トンネル(比羅夫)他工区—, トンネルと地下, Vol.54, No.10, pp7-17, 2023.
- 山本悟, 岡村貴彦, 山田聡史, 種田智徳: 山岳トンネル工事における油圧ショベル無人化施工システムの開発と適用—北海道新幹線・磐石トンネル(北)他工事—, 第92回(山岳)施工体験発表会, pp6-12, 2023.

### その他

- 畑浩二, 丹生屋純夫, 松井裕哉, 宮良信勝: 掘削損傷領域の評価へのDAS利用に関する研究, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-2, pp1-6, 2022.
- 須藤敦史, 兼清泰明, 佐藤京, 丸山収, 檀寛成: 寒冷地における矢板工法のトンネル覆工に対する維持管理のための考察, トンネル工学報告集, 第32巻, 1-32, pp1-10, 2022.

## 【創立50周年記念関連行事】

当社は2023年に創立50周年を迎えました。記念すべき節目を迎え、さまざまなイベントや社会貢献を行いました。



### 協働と協創進め100年企業にー記念祝賀



鏡開きで祝宴がスタート

2023年9月16日、ホテルポールスター札幌で創立50周年記念祝賀会を開催しました。社員とその家族、OB社員ら約170人が参加し、50年の軌跡を振り返りながら、100年企業に向けての発展を誓い合いました。記念式典では、舟田社長の挨拶に続いて舟田清志会長、舟田社長らによる鏡開きで祝宴が始まり、KIRIGAMIST千陽さんの切り紙パフォーマンスやお楽しみ抽選会などを親子で楽しみながらごやかな祝宴が続きました。会場内には縁日コーナーも設けられ、射的や輪投げコーナーには子ども達の歓声が響きました。

また、祝宴の終盤には、書家の伊藤寒岳氏による揮毫実演が行われ、その書に舟田会長が篆刻印を押しました。創立50周年を記念して舟田会長が選定したのは「知」「仁」「勇」の3文字。「論語」にある「知者不惑、仁者不憂、勇者不懼」から取ったもので、エーティックの未来をこの3文字に込めました。



舟田会長と書家の伊藤氏による、大迫力の揮毫実演

### 懇親と歓声が広がった新社屋見学会

また、8月4日には、本社で社員家族を招いての新社屋見学会を開催しました。社員を支える家族に、働く場所を見学し、楽しんでもらうことで会社と社員家族との一体感を深めようといわれたものです。当日は大勢の家族の皆さんが訪れ、屋上でのバーベキューや、協創ラウンジでの談話やイベントなどを楽しんでもらいました。



新社屋を存分に楽しんでくれました



子供たちもテクノロジーに興味津々

### 人材育成に役立ててーほっかいどう学推進フォーラムなどに寄付

9月11日、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム(新保元康理事長)への寄付活動を行いました。

寄付には、エーティック側から舟田社長と岡田正之専務、フォーラム側からは新保理事長と倉内公嘉理事(北海道開発技術センター理事長)が参加。舟田幸太郎社長は「地域を知ることによって愛着が深まり、地域が元気になる。建設コンサルタントの仕事は地域に寄り添い、活気を生み出すことが大きな目的。ほっかいどう学の推進に少しでも役に立ちたい、という気持ちで寄付した」と語りました。また、新保理事長からは「フォーラムも発足して5年目を迎えた。本年度からは、ほっかいどう学に関連する副読本や動画などの教材づくりを本格化させる。小学校では今、デジタル化が急速に進んでいる。こうした流れに対応するためにも教材の製作は不可欠であり、今回の寄付は教材の充実を図る上で大変ありがたい」との謝辞をいただきました。なお、当社ではほっかいどう学推進フォーラムに加え、北海道大学、室蘭工業大学、苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校などにも、人材育成を目的とした寄付を行いました。



目録を手にする舟田社長(前列左)と新保理事長(前列右)。後列は岡田専務(左)と倉内理事(右)

## Celebration

### 「北海道ニューオフィス奨励賞」を受賞

日本経済新聞社とニューオフィス推進協会による第36回日経ニューオフィス賞で、地域ブロックごとに表彰を行う「北海道ニューオフィス奨励賞」に、本社オフィスが選ばれました。

創立50周年を機に旧社屋をリニューアルし、昨年10月に竣工。活発なコミュニケーションから生まれる付加価値の創造によって、人が豊に育つ拠点でありたいというコンセプトにより、社内外コラボレーションの活性化を狙い各フロアをデザイン。業務によって執務スペースを選べる多様な空間となっていることなどが高く評価されました。



# A-TIC à la cart



## ■第1回ACSグループの技術発表

2023年度第1回ACSグループの技術発表会を9月27日に本社協創ラウンジで開催しました。若手技術者ら6人が、各分野の業務で得た知見や見解を論文にまとめ発表しました。発表会に参加した社員の評価も加えた審査の結果、最優秀賞に調査部の佐藤隼人さん、優秀賞に営業企画部の川原匠さんと設計部の三上嶋太さんが受賞しました。また、発表会後には、創立50周年記念特別講演として北海道開発技術センターの倉内公嘉理事長を招き、「dec事業から見た北海道の課題」をテーマにご講演をいただきました。



特別講演した倉内北海道開発技術センター理事長

## ■下期安全大会を開催

2023年度下期安全大会を9月27日に実施しました。あいさつで舟田幸太郎社長は「これから忙しさがピークを迎えるが、安全とメンタル管理を最優先にして欲しい」と、安全最優先で業務を進めるよう呼び掛けました。大会の最後には、社員を代表して設計部の中里亮介さんが安全宣言を行いました。



業務最盛期を迎え安全を再確認しました

## ■社会貢献活動 — 滝野公園植樹とユニセフ寄付

6月17日に滝野すずらん丘陵公園で植樹活動を実施しました。当社の基本理念である「国土づくりに貢献する」を実践する取組として毎年実施しているものです。今回は社員24人が参加し、樽型プランターに植樹しました。また、2月にトルコとシリアの国境付近で発生した大地震の早期復旧に役立てると、ユニセフ自然災害緊急募金への寄付を行いました。



子供たちと植樹を実施、いい天気にも恵まれました

## ■AED 救命訓練を実施

9月4日に防災訓練を開催し、この中でAEDによる救命訓練を実施しました。講師から器具の取扱の説明を受けた後、各班に分かれ、マネキン人形に実際に装着して、作動状況などを確認しました。



誰もがAEDを使い目の前の命を救う重要性を再認識

## 株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 〈本社〉 札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 99名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰
  - 令和5年 北海道開発局 局長表彰受賞
  - 北海道開発局 小樽開発建設部 部長表彰受賞
  - 北海道開発局 旭川開発建設部 部長表彰受賞
  - 北海道開発局 稚内開発建設部 部長表彰受賞
  - 令和4年 北海道開発局 局長表彰受賞
  - 北海道開発局 小樽開発建設部 部長表彰受賞
  - 北海道開発局 網走開発建設部 部長表彰受賞
  - 稚内建設管理部 優秀現場代理人表彰
  - 北海道開発局 局長表彰受賞
  - 令和3年 北海道開発局 札幌開発建設部 部長表彰受賞
  - 北海道開発局 留萌開発建設部 部長表彰受賞
  - 令和2年 北海道開発局 帯広開発建設部 部長表彰受賞
  - 令和元年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰受賞
  - 北海道開発局 小樽開発建設部 優良工事等表彰受賞
  - 札幌市建設局 土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞

## 組織図



## 編集後記

令和6年を迎えました。ここの干支は「辰」。辰年のキーワードである「変革（転機）」や「激動」が示すように、時代が動く年となるかもしれません。天高くのぼる竜に守られる年として、皆様のこの一年が大きな飛躍の年になることを祈念してやみません。 広報委員会 広報誌部会